

■ドイツ：洋上風力の電力によるカーボンニュートラルな航空燃料の製造計画

2019年11月7日付の報道によると、ドイツにおいて2030年までに洋上風力の電力によって製造される水素を活用した、カーボンニュートラルな航空燃料を生成する計画が進められている。西海岸100プロジェクト（Westküste 100 project）と呼ばれるこのプロジェクトは、政府から1億ユーロ（約120億円）が提供され、ØrstedやEDF Energyなど9つのプロジェクトパートナーによって進められる。実証はハイデ製油所で行われ、アルカリ電解槽に洋上風力の余剰電力（2018年は40%が送電系統上の制約に伴って余剰化）を利用することで水素を製造する。さらに、近隣のセメント工場から発生するCO₂と混合することで生成した合成メタノールを元に航空燃料を製造し、ハンブルク空港に供給する。さらに、製造工程において発生した酸素と廃熱をそれぞれ近隣のセメント工場の操業や地域暖房に利用することも予定されている。